

「仏さまも手を合わせておられる」

鳥取県 祥雲寺住職 片山 芳章 しょううんじ ほうしょう

昨年、住職でありわたくしの父でもある師匠が、急にこの世を去りました。私は喪失感と不安とで落ち着かない毎日でしたが、葬儀と四十九日の法要を無事終え、徐々に落ち着きを取り戻していききました。

皆様も、御先祖さまのご冥福を祈り、感謝の思いを表すために法事をし、法事を終えると「安心」すると思います。この「安心」こそ、ご供養の本質のような気がします。お檀家さんと法事をお勤めしているとき、ふと思いました。私たちが普段手を合わせている「仏さま」「先祖様」は、そのお姿を目にするこども、声を聴くこどもでもありません。ですが、ご法事でお経を読んでいるのは、僧侶とご遺族、ご親族だけではないかもしれません。姿かたちは確認できませんが、仏さまも、ご先祖様も、一緒になってお経を読まれているのではないでしうか。

「ご先祖様」と「私たち」を導いてくださる「仏さま」、「仏さま」に供養を捧げる「私たち」、「仏さま」と「私たち」からの思いを受け止める「ご先祖様」。そのすべてが、互いを思いやって法事を営んでいる、そう思ったとき、私たちはあらためて感謝の気持ちが湧き、心安らかに日々を過ごす（せる）のではないでしうか。

師匠の墓前で手を合わせるとき、きつと師匠もこちらに向かって、手を合わせてくれているのではないかと思えます。そう思うことで、私は、「安心」を得ることができたような気がします。私達は、お盆や、お彼岸のお墓参りの際、手を合わせ、ご先祖様に思いをはせます。ご先祖様も墓前の私達に、手を合わせておられるとしたら……。その姿を思い浮かべてみてください。きつと、今までとは違うものが見えてくると思えます。